

黒島天主堂

明治35年にフランス人のマルマン神父の設計と信者の献金、労働奉仕により完成した三廊式バシリカ教会堂です。建設当時の姿を良く残しており、のちの教会建築に影響を与えました。

串ノ浜岩脈

地下の溶岩が岩盤の裂け目に入って冷え固まり、周囲の軟らかい岩盤が波で削られ、硬い溶岩だけが壁のように残ったものです。約800万年前の地殻変動の様子を今に伝えるものです。

根谷のサザンカ

樹齢約350～400年になると推定されています。江戸時代末期に黒島に移住した潜伏キリシタンが植えたと伝えられ、実から採れる油は島での厳しい生活を支えたといわれています。

興禅寺と梵鐘

1700年代半ばに創建された由緒ある寺です。江戸時代は潜伏キリシタンも含めて黒島の住人全員が檀家として寺に所属していました。そのため文化11年(1814)に造られた梵鐘には潜伏キリシタンの名前も刻まれています。

信仰復活の地

黒島の潜伏キリシタンたちは、元治元年(1864)の長崎における信徒発見の2か月後に大浦天主堂を訪れ信仰を告白しました。その後島の潜伏キリシタン全員がカトリックとして再洗礼を受けることができ、明治5年にこの地で最初のミサが捧げられました。



(県天然記念物)
串ノ浜岩脈

女瀬ノ鼻

黒島の特産品

◇黒島豆腐◇

海水のニガリで固めた、独特の風味と硬さが特徴です。型崩れしにくく、鍋物などにも合います。

◇ふくれ饅頭◇

小麦粉で作った生地であんを包んだ素朴な饅頭。サツマサンキライ(カカラ)の葉を敷くのが特徴です。

※いずれも祝い事などのとき、島の婦人会が作ります。

◆ミカゲ石◆

九十九島では黒島のみに産出する閃緑石。墓石などに利用されています。

日本遺産 鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴
～日本近代化の躍動を体感できるまち～

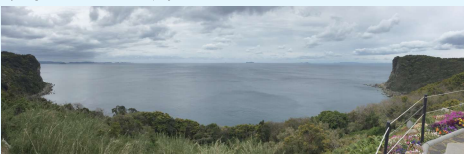
明治時代の日本は、近代国家として西欧列強に渡り合うための海防力を備えるため、国家プロジェクトにより天然の良港を四つ選り軍港を築いた。

静かな農漁村に人と先端技術を集積し、海軍諸機関と共に水道、鉄道などのインフラが急速に整備され、日本の近代化を推し進めた四つの軍港都市が誕生した。百年を超えた今なお現役で稼働する施設も多く、躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐かしさも遅く、今も訪れる人々を惹きつけてやまない。

黒島と高島は、明治44年(1911)に佐世保軍港区域の一部となり、黒島の女瀬ノ鼻がその東端でした。大正3年(1914)に第一次世界大戦が始まると軍港防備のため、黒島にも砲台が建設され、周辺の海には機雷の敷設も計画されていました。それ以来太平洋戦争が終わるまで佐世保軍港防備の要地であり続けました。



東シナ海の荒波によって削られた、長崎鼻や小崎ノ鼻の断崖絶壁を一望できる絶景ポイントです。



ここから天主堂を造る資材を荷揚げしたといわれています。



黒島天主堂

高島の特産品

◆高島ちくわ◆
エソを原料にして手づくりで焼き上げます。

番岳の狼煙台跡

高島遠見番所の狼煙台がありましたが、第2次世界大戦で砲台となり、今では公園になっています。



骨様と宮の本遺跡

各所への所要時間

黒島港から徒歩で

- ①黒島田代砲台発電所跡… 1分
- ②黒島名切砲台跡……………20分
- ③黒島東砲台施設跡……………30分
- ④黒島名切突堤……………35分
- ⑤黒島番岳砲台跡……………40分
- 黒島天主堂……………25分
- 串ノ浜岩脈……………40分
- 蕨展望所……………35分
- 根谷のサザンカ……………35分
- 興禅寺……………15分
- 信仰復活の地……………45分

高島の日本遺産

① 高島番岳高射砲台跡

昭和17年に東シナ海方面から佐世保軍港に侵入する敵の飛行機を攻撃するために建設された高射砲台です。12.7cm連装高角砲2基のほかに、佐世保周辺の高射砲台で唯一97式聴測装置を装備していました。数度の対空戦闘を経験しており、昭和19年11月21日の対空戦闘では68発を発砲し、B29爆撃機1機を撃墜しています。

② 高島番岳高射砲台発電所跡

高島番岳高射砲台に装備されていた97式聴測装置は、番岳山頂と、高島北部山頂の2箇所に設置された空中聴音機を組み合わせで敵機の位置を測定するものでした。そのため番岳と北部山頂の中間地点に両方の施設に電力を供給する発電所が建設されました。戦後は地元民に払下げられ、島の生活に電気を供給しました。

その他の史跡等

遠見番所跡 江戸時代に外国船を見張った番所の跡。役人が暮らした長屋が残っています。

宮の本遺跡 約2,000年前の弥生時代の大規模な墓地遺跡です。40体以上の人骨が発掘されました。

黒島の日本遺産

① 黒島田代砲台発電所跡

太平洋戦争終戦直前の昭和20年5月に連合軍の日本本土上陸、いわゆる「本土決戦」に備えて黒島にも砲台施設が建設されました。その砲台に電気を供給するための発電所として建設されました。敵艦からの砲撃に備えて厚さ50cm以上のコンクリートを用いた洞窟式となっています。戦後は地元民に払下げられ、島の生活に電気を供給しました。

② 黒島名切砲台跡

本土決戦に備えて建設された砲台の跡で、15cm砲1門のほかに25mm機銃2門も装備されていました。コンクリート造の洞窟式となっており、敵からの攻撃に備えています。本土決戦では黒島の沖に敷設された機雷と、小佐々の矢岳浦に配備された特攻隊（震洋）とともに敵を挟み撃ちにする計画でした。

③ 黒島東砲台施設跡

明治44年に佐世保軍港の区域が拡張され、黒島がその最外郭となりました。大正3年に第一次世界大戦がはじまると、黒島にも古里地区に東砲台、田代地区に南砲台の2箇所の砲台施設が建設されました。いずれも探照灯と格納庫、管制機雷を起爆する視発所、煉瓦造の発電所などがありました。これらの装備は太平洋戦争が激しくなった昭和18年に全て撤去され、最前線の部隊へと送られました。

④ 黒島名切突堤

大正3年に第一次世界大戦がはじまると、佐世保軍港の最外郭だった黒島にも軍港防備のために海軍の砲台が建設されました。その交通用として名切浜に突堤が建設されました。なお名切浜は黒島天主堂の建設資材を揚陸した場所でもあり、資材を運んだ道も残されています。

⑤ 黒島番岳高射砲台施設跡

昭和12年に東シナ海方面から佐世保軍港に侵入する敵の飛行機を攻撃するために建設された高射砲台です。8cm高角砲2基のほかに、ドイツ製の一式空中聴音機を装備していました。昭和19年に高角砲は他所に移され、終戦時はレーダーを備えた見張所となっていました。

黒島と高島への交通アクセス

黒島と高島には佐世保市相浦港から日3便のフェリーを利用して行くことができます。高島までは海上タクシー（約8分）も利用できます。フェリーくろしまは途中で高島に立ち寄り（およそ25分で到着）、黒島港までの所要時間は約50分です。

海上タクシー じゅうふく(1日4往復) さくら(1日3往復)	相浦⇄高島 約8分 Tel 090-1921-1723 Tel 090-3075-1817
※貸切の場合は黒島にも行きます。	

黒島旅客船 フェリーくろしま TEL 0956-56-2516	相浦港発	黒島発	相浦港着	
	10:00	6:40	7:30	
	13:00	11:10	12:00	
	17:00	15:30	16:20	
※ゴールデンウィーク、盆、年末年始は4便に増便されます。				
	増便時	相浦港発	黒島発	相浦港着
	1便	8:30	6:40	7:40
	2便	11:00	9:40	10:30
	3便	14:30	13:10	14:00
	4便	17:00	15:40	16:30

*料金等、詳しくは各所へお問い合わせください。

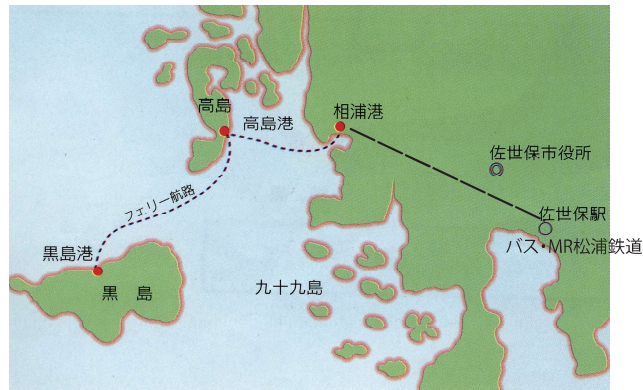
<見学時間>

黒島と高島、どちらも午前の船で渡り、午後の最終便で帰るコースでは、4時間程度が現地での見学に使える時間になります。

高島では徒歩移動が基本となりますが、黒島では電動アシスト自転車、電動スクーターが有料で利用できます。

<宿泊>

山下旅館	5 6 - 2 0 1 6	1泊2食	6,300円(消費税込)
喜久屋旅館	5 6 - 2 0 0 2	1泊2食	6,300円(消費税込)
民宿つるさき	5 6 - 2 0 3 8	1泊2食	6,300円(消費税込)



鉄道を利用した場合、佐世保駅で松浦鉄道に乗り換えて、相浦駅まで約30分。相浦駅からフェリー発着場までは徒歩5分です。

バスを利用する場合は、西肥バスで佐世保駅前から相浦桟橋行きに乗り、約30分で到着します。

<お問い合わせ先>

史跡ガイド	黒島観光協会	Tel 0956-56-2311
問い合わせ	佐世保市役所(文化財課)	Tel 0956-24-1111



佐世保市教育委員会